मैत्री とうざい मैत्री

No.29　令和２年度 春号　―2020．03．28―
東洋大学仏教青年会・東洋大学仏教会発行機関誌

मैत्री maitrī（マイトリー）とは、慈しみ、友情、思いやりを意味する古代インドのサンスクリット語です。

ごあいさつ

今まさに新型コロナウイルスの感染者が急激に広まり、世界はパンデミックになっている。日本では東日本大震災以来の災難、世界規模ではそれよりまして大規模な災難が起こりつつある。すべての人々が運命を共有しているのであり、人種や国家間の戦争などをしている場合ではないのだ。このような状況で、日本政府の学校への働きかけもあり、東洋大学も卒業式・入学式をはじめ多くの行事が中止になった。これにともない学生部からは課外活動中止の要請があり、誠に残念なことではあるが今年度の仏青・仏教会の仏教講演会、及び総会は開催できる見込みが立たない。これまで準備してきた関係者、会員諸氏にはどうか事情を鑑みてご寛恕いただきたい。今私たちにできることは、ウイルス対策に注意しつつ、与えられた時間を無駄にせず、各自の目的を達成するため、意識的に過ごすことであろう。ともかく一刻も早い収束を祈るばかりである。

仏教会会長　文学部教授　渡辺章悟

この度、東洋大学仏教青年会・会長に就任いたしました、板敷真純と申します。先代の会長である村田啓輔さんより、このような名誉ある職を拝命いたしましたことを光栄に思います。まずは前会長のこの１年間のご尽力に心より感謝を申し上げます。

昨年２０１９年は、本大学の学祖・井上円了先生の没後１００周年にあたる節目の年であり、大学の内外で多くのイベントが開催されました。井上先生は、仏教思想を基調とした哲学教育の必要性を痛感され、東洋大学の前身である哲学館を創設されました。本団体は、１００年の時を越えて、先生の思いを継承し、学生・社会人を問わず、仏教に親しみ、互いに切磋琢磨しあうことを理想としております。私も、この理念実現に向けて、最大限努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

新仏教青年会会長　板敷真純

新型のウィルスが未曽有の流行を呈し、気候も例年になく温暖となっている昨今ですが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。私が東洋大学の仏教青年会の会長となってから早２年が経過いたしました。この２年は、私にとって、仏教青年会の勉強会や、大学仏教青年会連合の活動などを通し、自身の身になることが多かったと感じております。私が博士前期課程を修了する関係上、会長は先輩にあたる板敷真純さんに引き継ぎいたしますが、次年度以降の東洋大学仏教青年会の活動の発展を切に祈念いたします。最後になりますが、至らない点も多々あったと思います。２年間の感謝をここにおいて申し上げたいと思います。ご指導、ご鞭撻ありがとうございました。

前仏教青年会会長　村田啓輔

2019年度　大学仏教青年会連合・合宿報告

村田啓輔（東洋大学大学院博士前期課程修了）

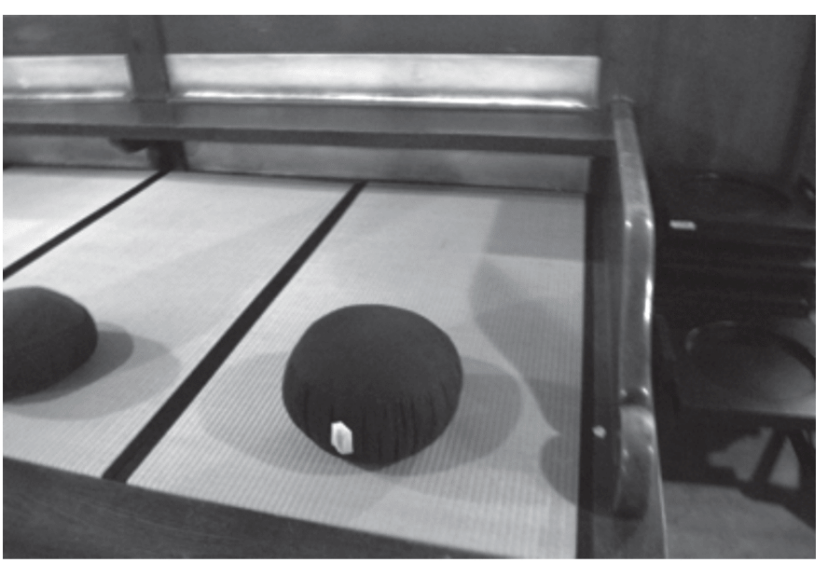
毎年の恒例行事となっております、大学仏教青年会連合の夏合宿に、今年度も行ってまいりました。残念ながら東洋大学の学生は３名のみで、東洋大学仏教青年会からの参加者は私一人でした。この『まいとりぃ』を手に取って下さった会員の皆様が、「毎年、こういう行事があるんだなぁ」と思って下さればいいなと思い、執筆しております。

今回の合宿は9月12日（木）と9月13（金）の2日間でした。2019年の夏は酷暑で、12日の当日もかなり暑かったと思います。今回の合宿先は曹洞宗大本山總持寺様でした。鶴見駅で下車して、坂道をえっちらほっちらと登り、總持寺様にたどり着いたと記憶しております。

折しも、台風15号が関東に上陸した直後だったので、風によって倒された木がありましたが、全体的には広々として開放的な印象を受けました。参拝客と思われる方々も何人かお見掛けしました。

宿泊が曹洞宗の大本山ということで、この合宿の主眼は座禅体験でありました。２日間で計５回、座禅を行いました。私は座禅経験がほとんどなく、座禅１回分の時間である、１炷40分という期間はいささか長いかな、と思っておりました。しかしながら、これがなかなかどうして、回数を重ねるにつれて、あまり苦にならなくなってきたのでした。２回、３回と座禅していくうちに、集中力も増したようで、気持ちよい、心地よいという形容詞が禅定中の心境を表すことに適切かはわかりませんが、そのように感じて体験することができました。前述いたしました通り、酷暑の夏ではありましたが、特に２日目の座禅中は涼しく感じられる陽気で、気候的にも恵まれていたと思います。

２日目には１炷の座禅を２回連続でしました。もちろん２炷１時間20分を連続で行うという意味ではなく、中間で経行を挟みました。涼しい禅堂の中を静かに集中して歩くと、座禅とはまた違った風情が感じられました。



今回の合宿において、座禅の他の目玉としては、作務の体験がありました。当初は３時半起床の予定でしたが、４時に起床時間が変更になり、心身ともに少し余裕をもって行うことができました。總持寺様はとても長い「百間廊下」が有名です（お話を伺ったところ、実際には百間よりも短いようです）。歩いた感触はツルツルでしたが、ワックス等をかけているわけではないようです。長年、磨き続けられたことによる結果とのことでした。作務でこの廊下をぞうきん掛けすることになったのですが、そのような背景を伺った後では、そのツヤに少しばかりでも寄与できることに対して、なんとも貴重な

ことだなあという感慨がわいたものです。ただ、途中でアブと思しき虫を踏んでしまったことは、なんとも残念というか、寺院内で殺生をしてしまったという気分にはなりましたが…。

この合宿には、引率として、渡辺先生と筑波大学の佐久間秀範先生に来ていただいておりまして、２日目に両先生に講演していただきました。佐久間先生は初期唯識について講演されていましたが、その際におっしゃっていた「瑜伽行派の学僧が行っていたように、私も禅定体験できたように思う」というお言葉が、なんとも印象に残っております。

紙面の都合上、簡略的に記述させていただきましたが、次年度以降もこのような合宿があると思います。『まいとりぃ』を読んでいる皆様も、１度参加なさってみてはいかがでしょうか。素敵な体験ができると確信しております。